

## 南極観測船ふじの展示 30 周年・建造 50 周年 記念イベント

### ご協力をお願い

南極 OB 会の皆様

皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、来る平成 27 年は、南極観測船ふじが建造されてから 50 周年、ふじが名古屋港に展示されてから 30 周年の節目を迎えます。この節目に当たり（公財）名古屋みなと振興財団では、平成 27 年 7 月中旬から 9 月中旬までの間、南極観測船ふじに関する特別展を開催する予定です。つきましては、南極 OB 会東海支部を中心に「ふじ 30 周年記念事業実行委員会」を発足させ、この特別展と同じ期間に、ふじを身近なものとして感じてもらい、南極の広報に寄与するための記念イベントを企画しつつあるところでございます。なお、第 8 次南極地域観測支援行動時のふじ艦長・松浦光利氏に特別顧問としてお力添えをいただく予定です。

現在、実行委員会ではふじや南極にあまりなじみのない方々にも関心を持って頂くために、下記及び別紙に示すような催しを企画しております。この企画は、皆様からの情報・ご協力なくしては前に進めません。お忙しいところ大変恐縮ではございますが、情報提供にお力添えください。どうぞよろしくお願い申し上げます。

ふじ 30 周年記念事業実行委員会 委員長 岩坂泰信  
特別顧問 松浦光利

### 記

#### 企画 1 : 「ふじの思い出ひとこと」集

ふじ船内での思い出話や逸話、スナップ写真を募集し、ふじ船室のドアや壁を利用した展示を通して、ふじに親しんで頂く。

#### 企画 2 : 観測隊員・ふじ乗組員のお宝展示会

南極観測に関するお宝を募集し、名古屋港ポートビルやふじ船内に展示し、南極での珍しい品々や日常の暮らしぶりを知って頂く。

各企画については別紙の詳細をご覧ください。

## 企画１：「ふじの思い出ひとこと」集

ふじでの体験は、日常として当たり前となっていたことでも、体験していない者にとっては想像もできないほど貴重で面白いものです。例えば、南極に行くまでにはどれほど海が荒れるのか、どれほど船が傾くのか、あるいは荒れた海での酒宴や、食事の様子、歯の治療など、経験したことのない人にとってはすべてが新鮮です。

そこで、ふじ船内での思い出話や逸話、スナップ写真を募集し、ふじ船室のドアや壁を利用した展示を通して、ふじに親しんでもらうことを企画しました。下記の要領で、皆さんの持つ「思い出」をお寄せください。

お名前：

住所：

電話番号：

参加した隊次：

思い出の場所・船室：

記載例

昭和〇〇年〇月

甲板から見たオーロラの

美しさは今でもほろりと

胸裏に焼きついております。

〇次隊

〇山×夫

思い出の内容（手書きで結構です。お一人何件でも結構です）

本状送り先：〒455-0033 名古屋市港区港町1-9 南極観測船ふじ

思い出の一言係 宛て

電話：052-652-1111 担当：山下博道・加藤浩司

締め切り：平成27年4月末日

注：お寄せ頂いた思い出は、イベント以後もふじの展示で使用させて頂く場合があります。

## 企画2：観測隊員・ふじ乗組員のお宝展示会

家人にはガラクタとしか見えないのかもしれませんが、皆様がお持ちの南極にまつわる『お宝』をお貸し頂けませんか？ 各隊次で作ったライターや帽子、当時愛用した工具、衣類、越冬中に作ったボトルシップなど、今まで保管していた物にはそれなりの理由があるはず。お宝の展示とともに、その「うんちく」を語って頂く会にご協力ください。

お名前：

住所：

電話番号：

参加した隊次：

お宝名：

およそのサイズ・重さ、個数：

お宝の由来・エピソードなど：

「お宝」の内容をお知らせ頂いた後に、展示までの具体的な段取り（時期や送付先等）をご相談させていただきます。

本状送り先：〒455-0033 名古屋市港区港町1-9 南極観測船ふじ  
南極のお宝係 宛て

電話：052-652-1111 担当：山下博道・加藤浩司

締め切り：平成27年4月末日

注：お貸し頂く展示品が寄贈可能な場合には、その旨お知らせください。